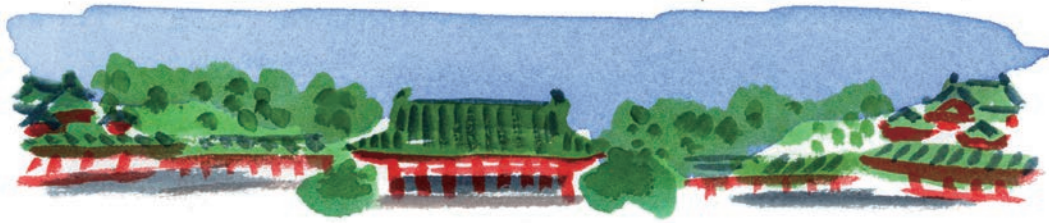


一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会

A.C.P.C. **navi** ©2025 A.C.P.C.

All Japan Concert & Live Entertainment Promoters Conference

SUMMER 2025 VOL.56



MUSIC AWARDS JAPAN 2025 特集号

中西会長連載対談 SPECIAL 野村達矢 MAJ 実行委員会 委員長 稲葉豊 MAJ 実行委員会 副委員長

表紙の言葉

ロームシアター京都で開催された MUSIC AWARDS JAPAN 2025 (MAJ)の授賞式(Premiere Ceremony／Grand Ceremony)では、受賞者に赤色に輝くトロフィー、「THE RUBY(ザ・ルビー)」が贈られました。各賞の価値を示すように重く、美しいTHE RUBYを撮影した写真が今号の表紙です。

受賞者を発表し、受賞アーティストにTHE RUBYを手渡す役割を担ったのがプレゼンターの皆さん。そのうちの一人、京都在住の作詞家・松本隆さん(本誌51号に登場)が表紙を飾った雑誌が、MAJ開催期間中も京都の書店に並んでいました。地元の書店である大垣書店が昨年、京都を愛するすべての人へ向けて創刊した雑誌『KYOTOZINE(キョウトジン)』です。そして、『KYOTOZINE』には本誌のイラストレーションを担当してくださっている小池アミイゴさんの作品も掲載されていました。京都市左京区孫橋町近辺の鴨川の風景を穏やかなタッチで描いたその作品が、本ページも彩ってくれています。今号のヴィジュアルは、「MAJと京都とACPC」のつながりを手繰り寄せているうちに、次々に決まっていきました。

イラストレーション：小池アミイゴ
『KYOTOZINE』創刊号(大垣書店)より



一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会
A.C.P.C. navi
SUMMER 2025 VOL.56

4 VOL.56 刊行のご挨拶 中西健夫 ACPC 会長

5 中西健夫会長連載対談 SPECIAL

第40回ゲスト＝野村達矢(日本音楽制作者連盟理事長／MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会委員長)、
稲葉豊(日本音楽出版協会会長／MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会副委員長)

10 MUSIC AWARDS JAPAN 2025 開催報告

16 連載 伊神が行く! HOMETOWN ENT.NIGHT & DAY

伊神悟 ACPC 副会長 第5回＝中部編

木下明彦、勇元孝介、高須誠也、根津渚(キョードー東海)×泥谷公貴、遠藤菜月、猪股美彩紀、
鷲尾香音、松田まみ、北村綾菜、東まり菜(サンデーフォークプロモーション)×石川岳志、後藤明日奈(ジェイルハウス)

22 「使う側」の経験値を活かしたライブハウス型ホール
名古屋に誕生した COMTEC PORTBASEの設備と発想

24 オンライン座談会 公演担当者座談会

佐藤胤太朗(ウエス)×古川嗣久(ボニーキャニオン)×芋縄飛悠吾(ソーゴー大阪)×田川大我(ビッグイヤーアーツ)

29 ECSA Lounge

30 連載コラム「帰ってきた TALKING BLUES」

鏡 孝彦(ACPC専務理事)

31 navi ARENA

私達は何を思い、何のために MUSIC AWARDS JAPAN 2025を開催したのか

A.C.P.C. navi vol.56 刊行のご挨拶

日頃より本会の活動にご理解とお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

MUSIC AWARDS JAPAN の第1回が無事に終了しました。事前の予想を大きく上回る反響と高い評価をいただいたことは、アワードが目指す方向や理念が正しかったこと、そして今後の継続に向けての大きな期待をいただいたと受け止めています。京都での初回開催に向けてご尽力された関係者の皆様に改めて敬意を表したいと思います。

本号ではアワードの総括として MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員長の野村達矢様、副委員長の稲葉豊様との鼎談を行っています。初回開催に向けた舞台裏のお話から、アワードで生まれた実績や変化、そして具体的な構想を通して未来に向けたヴィジョンが見えてくるはずです。

ようやく産声を上げたばかりのアワードを進化させて、次代へと繋いでいくためには、会員の皆様のご理解とご参画が欠かせません。今後は皆様にアワードへ関わっていただく機会をもっと増やしていければと考えています。

各地で夏フェスが本格化するシーズンを迎えました。6月1日からは厚生労働省によって「職場における熱中症対策」が義務化されています。公演における安全・安心がこれまで以上に必要とされる時代ですが、ACPCでは会員各位をはじめ、ライブ・エンタテインメントに携わる皆様と対策や情報を共有しながら、諸課題への取り組みを進めて参ります。



一般社団法人コンサートプロモーターズ協会
会長 中西健夫



野村達矢 Tatsuya Nomura
一般社団法人日本音楽著作権協会理事
一般社団法人カルチャー・アンド・エンタテインメント産業振興会理事
MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会委員長
株式会社エースミュージック代表取締役社長

稲葉豊 Yutaka Inaba
一般社団法人日本音楽出版協会会長
一般社団法人カルチャー・アンド・エンタテインメント産業振興会理事
MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会副委員長
株式会社エースミュージック代表取締役社長

中西健夫 Tetsuo Nakazuki
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長
一般社団法人カルチャー・アンド・エンタテインメント産業振興会副理事長
株式会社ディスクレージ取締役会長



野村達矢

一般社団法人日本音楽制作者連盟理事長
一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興会理事
MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会委員長

1986年、渡辺プロダクション入社。89年、ヒップランドミュージックコーポレーションに移籍し、2019年に代表取締役社長執行役員に就任。ロングフェロー代表取締役社長、MASH A&R 取締役なども歴任。2007年、日本音楽制作者連盟理事に就任。2017年に常務理事、2019年に理事長就任。

本誌でも、徐々に決定していくオフィシャル情報をお届けしてきた MUSIC AWARDS JAPAN (MAJ) 2025 が 5 月 18 日から 22 日にかけて開催されました。主催者である CEIPA の構成団体の間でも、当日が近づくにつれ期待が高まりつつ、一方ではどんなイベントになるのか明確には見えてこない状態だったと思いますが、実際にその全貌が明らかになった MAJ は、どんな姿をしていたのでしょうか。開催地・京都を訪れ、会場で体験した方、授賞式を放送・配信でご覧になった方からは、どんな反応があったのでしょうか。野村達矢 MAJ 実行委員会委員長（日本音楽制作者連盟理事長／CEIPA 理事）、稲葉豊同副委員長（日本音楽出版社協会会長／CEIPA 理事）、CEIPA では副理事長を務める中西健夫 ACPC 会長が鼎談で実感を語り合い、次回開催へ向けた冷静な分析にまで話は及びました。

伝わった「公正」「透明性」

—— MAJ が無事終了して、現在の率直な気持ちをお聞かせください。

中西 立ち上げから携わっているメンバーも、当初は果たして開催できるのか

なという気持ちがあったと思います。日本の音楽シーンがどのようになっていったらいいのか、根本的な問題から話合っているうちに実現が見えてきて、最終的に本当によくできたなというのが正直な気持ちです。音楽 5 団体が結集して、一つのものをつくり上げていくことは初めての試みだったので、それを実現できたということは、未来に向けたキックオフになると思いますし、もちろん様々な評価があるとは思いますが、少なくとも音楽ファンの皆さんには我々の意図は届いたんじゃないかと考えています。

野村 初回がこうして終わってみて、各所の反応を見ると、僕らがやろうとしたことは音楽業界からも、音楽ファンからも必要とされていたんだと感じることができ、うれしかったですね。グローバルであったり、公正で透明性のあるアワードの選出方法であったり、そういうことを実は皆さんも求めていたんだと伝わってきました。それと何より日本の音楽業界が世界に向けて一つにまとまったことを周知できただけでも、大きな意味があったと思います。

稲葉 MAJ は授賞式だけにとどまら

ず、ライブ・イベントがあり、カンファレンスがあり、パーティーやレッドカーペットもあるという形になったわけです。MAJ の構想を話し合い始めた当初、詳細な具体案があったわけではありませんが、もともとアワードの授賞式を生中継するだけにとどまらない立体的なものを、というイメージはありましたので、それを 1 年目から提示できて良かったと思います。今後は運営の緻密さを上げていったり、さらに立体感を高めていくかどうかを検討できればと思います。

来年は東京での開催

—— CEIPA として今後も MAJ を継続していく意志は、はっきりあるわけですね。

中西 もちろん継続しないと意味がないと思っています。初回は大変ありがたいことに高評価をいただいたので、これをブラッシュアップしていくことで、MAJ が日本の音楽シーン、さらに日本人の生活の中に根づいているところまで持っていくことが目標です。来年は東京で開催予定なので、今年の反省も踏まえて、次回に向けた構想をこの 1 ～ 2 ヶ月で検証していくことになると思います。

稲葉豊

一般社団法人日本音楽出版社協会会長
一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興会理事
MUSIC AWARDS JAPAN 実行委員会副委員長

1999 年、インテリジェンス（現パソナキャリア）常務取締役に就任。99 年、ユーズミュージックを設立し、代表取締役社長に就任。同年 USEN 入社、2008 年まで常務取締役を兼任。2015 年、USEN 顧問（メディアプロモーション事業部管掌）就任。2017 年、USEN-NEXT HOLDINGS 顧問（ライツ＆コンテンツ推進室管掌）就任。2019 年、キャンシステム取締役副社長就任。2014 年、日本音楽出版社協会理事に就任。2016 年に副会長、2020 年に会長就任。



野村 音制連（日本音楽制作者連盟）の立場、アーティストをマネジメントする側からいうと、初回できちんと形を示せたことで、来年からはだいぶ進めやすくなると思います。例えばノミネート発表時には楽曲の国内ストリーミング数が 22% 増加、最優秀賞を受賞した楽曲は 31% 増加しました。当日パフォーマンスされた楽曲のストリーミング数の平均増加率は 49%。さらには NHK プラスでの同時配信、1 週間の見逃し配信を合わせた視聴数が紅白歌合戦、オリンピック、連続テレビ小説、大河ドラマを除く NHK 全番組の中で、歴代最高の数値を記録したことが発表されました。一般的に SNS でもバズり、「MAJ は絶対観なきゃ」という現象を引き起こしたんだと思います。こういう結果を受けて、MAJ の具体的な効果を印象づけられたと思いますし、その主体が特定の放送局や団体ではなく、日本の音楽業界全体であり、オールジャパンであることも浸透したと思います。ありがたいことに、アーティストやマネージャーの皆さんが「来年は絶対に出たい」と口々に言ってくれているのが耳に入っています。



中西 健夫

一般社団法人コンサートプロモーターズ協会会長

一般社団法人カルチャー アンド エンタテインメント産業振興会副理事長

稲葉 CEIPA が手がける事業には年に1回のMAJだけではなく、継続的、日常的に行っていくトップ・パートナーのTOYOTA GROUPさんとの共創プロジェクト、MUSIC WAY PROJECTもあります。MAJの受賞対象者もアーティストだけではなく、楽曲であったり、プロダクトに関わったクリエイターやスタッフに広がっていくのが前提であって、MUSIC WAY PROJECTの一つ、SONG BRIDGEではソングライター、クリエイターにスポットを当てられればと思いました。今回は実績があるクリエイターが各国から京都に集まりコライティング・キャンプを行いました。今後は規模を拡大するなど、新たな角度での試みを考えていきたいです。MUSIC WAY PROJECTではグローバルなスタッフ育成のためのセミナー、ワークショップも行っていますし、様々な発表が随時リリースされていくと思います。

2年目に向けたチューニング

——「2年目のMAJ」はどうなっていくのか、現時点での構想をお聞かせください。

中西 今回のアワードには、グランプリ

エンジニア賞、ミュージックテック功労賞はありましたが、別の形でのスタッフへの賞もつくればと個人的には考えています。アーティストだけではなく、スタッフにとっても励みになり、音楽業界のリクルーティングにもつながる賞が必要だと思います。それと社会貢献活動を積極的に行っているアーティストも、何らかの形で讃えていきたいですね。また、京都では授賞式への入場は関係者の方のみでしたが、東京での開催となると会場の規模が大きくなったり、複合的な会場での開催も可能になりますので、一般のお客さんの参加も考えていきたいです。

野村 初回は公平性や透明性を強調するために、分かりやすく賞をセグメントしていくことが必要でしたが、2年目以降はもう少し幅を広げて、バックヤードのスタッフ達であったり、ライブについての賞の創設も考えていきたいです。ライブに賞を贈る場合、公平性を担保するのがなかなか難しく、どのライブ、どのツアーが良かったのかを選ぶためには、すべてのライブを観ていなければということになってしまいます。結果

的にライブについては、動員数だけを基準とした「ラージェスト・ライブ・オーディエンス賞」のみになりましたが、演出面に関わっているクリエイターの方であったり、ライブのスタッフの皆さんもピックアップできればと考えています。稲葉 広げていくこともやっていく必要がありますが、選考方法のプロセスをもう少しチューニングして、精度をどう高めていくかも来年に向けて重要になってくると思います。今回は初めて設立されたアワードでしたから、その賞が設定されたことすら、対象となる人達が気づいていない、こちらも伝えきれていない中で進んだところも現実的にはあったと思います。本来ならば該当する領域の人達に対しては、きちんとインフォメーションをして、プロセスもしっかり見ていただいて、当日を迎えるという流れをつくる必要があります。それが当事者意識を育み、アワード自体の盛り上がりをつくっていくと思いますので、まだまだ丁寧にやっていかなくてはいけないことが多いですね。

——音楽業界の各団体に向けて、来年度以降どのようにMAJに協力していただ



きたいのか、最後に実行委員長の野村さんから、ひと言お願いいたします。

野村 第一段階としてエントリー楽曲の発表がありますが、その段階から注目していただきたいですね。そして、皆さんが持っている投票権を行使していただいて、投票に参加していただきたいです。次にノミネート楽曲が発表されるので、そこでも注目していただきたいです。そして、もちろん授賞式当日も積極的に参加していただければ。皆さんの参加意識がとても大切で、それこそがMAJのステイタスをさらに上げるのだと思います。最終的に選ばれるのが、どの作品に、誰になるのかももちろん大事ですが、ノミネートされること自体が誇らしい出来事なんだと、僕らももっともっとアピールしていきたいですし、アワードへの考え方、基準、カテゴリーもブラッシュアップして、随時発表していきますので、ご注目いただければと思います。

※本誌に掲載された座談会はダイジェスト版です。完全版はACPCホームページをご覧ください。



MUSIC AWARDS JAPAN 2025 開催報告

5月18日から22日にかけて、京都にて開催された MUSIC AWARDS JAPAN (MAJ) 2025では、授賞式だけではなく、様々なライブ・イベント、セミナー、シンポジウム、パーティーなどが行われました。音楽業界内はもちろん、広く一般的にも大きな話題となったその全貌を、限られた紙幅ながら一気にお伝えします。ACPCでは関西支部会をはじめ会員社がライブ・イベントなどで制作に参加しました。



撮影：小山昭人(FACE) ※本ページのみ ※出演者のお名前の敬称は略させていただきます

5/19

演歌・歌謡曲 LIVE

ロームシアター京都・サウスホール

日本の独自性を強調し 演歌・歌謡曲を世界へ

演歌・歌謡曲部門は「古典的な芸能に加え、演歌・歌謡曲も日本のソウル・ミュージックとして位置付け、日本の伝統的なカルチャーを世界へと発信」することを目的に創設。今回のライブも「日本独自の音楽性」を強調するステージに。

具体的には、和太鼓の演奏に続いて、連獅子の舞をバックに北島三郎の「まつり」を歌った細川たかし。東映剣会と殺陣を演じ、「雪月花」を歌唱した辰巳ゆうと。津軽三味線の音色とともに披露された長山洋子の「じょんから女節」、細川たかしの「望郷じょんから」。これらの演目を、松丸友紀とMCを担当したミャンマーのヤンゴン出身の森崎ウィン、オーストラリアのシドニー出身のケイナが英語を交えて紹介。新世代の演歌を担うシンガー、グループも登場。最優秀演歌・歌謡曲楽曲賞の授賞式も行われ、山内恵介の「紅の蝶」が受賞しました。



5/20

MUSIC AWARDS JAPAN A Tribute to YMO - SYMBOL OF MUSIC AWARDS JAPAN 2025 -

国立京都国際会館・メインホール

シンボルに選出されたYMOへの 最高水準のトリビュート

記念すべき初開催において「SYMBOL OF MUSIC AWARDS JAPAN 2025」に選ばれたのはYMO。細野晴臣、坂本龍一、高橋幸宏により1978年に結成。本格的なワールド・ツアーを成功させ、国内でも社会現象を巻き起こしました。MAJでは共演経験のあるミュージシャンや若い才能が、YMOをトリビュートするライブを行いました。

高野寛を中心としたバンドに、ゲスト・ミュージシャンが次々に参加する形式で進行。同様の形式で行われるトリビュート・ライブは珍しくありませんが、ディテールを含めた楽曲の再現、新たな解釈による再構築のレベルは間違いなく最高水準。YMOのワールド・ツアーにも同行した松武秀樹と、幅広い才能をもつ22歳の原口沙輔が同じステージでプレイしたシーンからは、YMOの音楽が世代を越えて継承されていることが示されました。



セミナー／シンポジウム／パーティーなど

5/21
Gala Party

ホテルオークラ京都・晩曇

司会：クリス・ペブラー、森香澄

石破総理からメッセージ

司会の2人が授賞式（Premiere Ceremony）の熱気を振り返ると間もなく、石破茂総理からのビデオ・メッセージが上映。音楽業界5団体が一致団結したことにエールを送り、世界に向けて音楽産業が発展していくことを強く願う内容でした。続いて野村達矢 CEIPA 理事／MAJ 実行委員会委員長から主催者を代表してスピーチ。乾杯の挨拶は日本語と英語で、都倉俊一作曲家／文化庁長官が務め、さらにパーティーに出席した各部門のノミネート／受賞アーティスト達が登壇し、ひと言ずつコメントも述べました。



Gala Party

5/22
Lunch with Spotify

ロームシアター京都・モダンテラス

登壇者

グスタフ・イエレンハイマー（Spotify ヴァイスプレジデント・マーケット&サブスクリプションズ）、ジョー・ハドリー（Spotify グローバル・ヘッド・オブ・ミュージック・パートナーシップ・オーディエンス）、トニー・エリソン（Spotify Japan 代表取締役）

世界での成功例を詳細に

Spotify が日本の音楽の需要をどのように広げ、グローバルな存在にしようとしているのかが説明され、他国の成功例を詳細に解説。最後にエリソン氏が「日本の音楽の未来は明るい。キーワードはコラボ。ツールをコツコツ、継続に使っていけば、必ずチャンスは広がります」と会場に呼びかけました。



Lunch with Spotify

5/22
業界シンポジウム
「音楽、感動から産業へ。
世界進出へ向けた
課題と可能性。」

ロームシアター京都・モダンテラス

登壇者

パネリスト：島並良（神戸大学大学院法学研究科教授）、佐伯徳彦（経済産業省商務・サービスグループ文化創造産業課課長）、榎井圭子（文化庁著作権課課長）、高嶋直子（Billboard Japan 編集長）、佐藤朝昭（日本レコード協会専務理事）
モデレーター：柳川範之（東京大学大学院経済学研究科教授）

司会：杉浦孝明（三菱総合研究所）

世界進出の課題と可能性

「日本の音楽の現状を産業として正確に捉え直した上で、さらなる経済的な成長・市場の拡大を図る」というテーマで行われたシンポジウム。各パネリストが日本の音楽産業の現状を分析し、世界進出に向けた課題がビジネスと著作権の両面から語られました。



業界シンポジウム

5/22
YouTube Cocktail Party
ヒルトン京都・螺鈿

登壇者

オープニング・スピーチ：リオ・コーエン（YouTube & Google 音楽部門グローバル責任者）
キーノート・スピーチ：エミリアン・モヨン（パークリー音楽大学バレンシア校のプログラム・ディレクター）
ゲスト・パネリスト：トム・ウィンディッシュ（Wasserman Music エグゼクティブ・バイス・プレジデント）、ポール・スミス（YouTube & Google アジアパシフィック地域音楽責任者）、中川悠介（アソビシステム代表取締役）
司会：駒崎絵里（ソニー・ミュージックレーベルズ 企画戦略本部 海外マーケティング部 部長）

「MUSIC WAY PROJECT」の新展開

パークリー音楽大学バレンシア校のプログラム・ディレクター、エミリアン・モヨン氏から「日本の音楽をどのように世界へ展開できるのか」をテーマにしたレクチャーがあり、続けてパークリーがCEIPAとTOYOTA GROUPの共創プロジェクト「MUSIC WAY PROJECT」Professional Seminarとパートナーシップを結んだことを発表。世界の音楽産業をリードする3名のパネル・ディスカッションでは「日本のライブ・ビジネスを世界はどう見ているか、アーティストにとってどんなチャンスがあるのか」などが語られました。



YouTube Cocktail Party

5/21 授賞式 Premiere Ceremony

ロームシアター京都・サウスホール

日本の音楽の幅広さと歴史が 伝わった Premiere Ceremony

授賞式のうちPremiere Ceremonyでは、40部門の最優秀作品／アーティストを発表。オープニングを飾ったのはBOOM BOOM SATELLITESの元メンバー、中野雅之が小林祐介と結成したバンド、THE SPELLBOUNDの演奏。続いてMCの井桁弘恵、森香澄、谷中敦からアワードの概要が説明され、受賞者に贈られる赤色に輝くトロフィー「THE RUBY」の紹介がありました。

セレモニーに移ると、本間昭光率いるスペシャル・バンドの生演奏(日本のポピュラー・ミュージックの名曲の数々)をBGMに、各賞を発表。発表の合間には、箏アーティストのLEOによる「千のナイフ」(坂本龍一)の演奏、SHOW-GOのヒューマン・ビートボックスのパフォーマンス、クラシックのサクソ奏者、上野耕平による独奏、エンディングでは高橋あず美が「And I am telling you I'm not going」を歌い上げました。



Premiere Ceremonyの様子。この日に発表された賞のうち、「Bling-Bang-Bang-Born」が7部門を受賞したCreepy Nutsが登場

5/22 授賞式 Grand Ceremony

ロームシアター京都・メインホール

透明性と公平性を守った上で 質の高い Grand Ceremony に

主要6部門の最優秀作品／アーティストを発表するGrand Ceremonyの冒頭では細野晴臣がスピーチ。続いてオープニング・ショー、YMO「RYDEEN REBOOT...」の映像、MCの菅田将暉の登場と続きました。

以降、主要6部門の発表(プレゼンターは松重豊、小泉今日子、都倉俊一、浅田真央、三浦知良、松本隆、川上未映子、糸井重里、役所広司)と、アーティスト達のパフォーマンス(AI、宇多田ヒカル、Awich、Creepy Nuts、ちゃんみな、藤井風、Mrs. GREEN APPLE、YOASOBI)も併行して行われました。また「TIMELESS ECHO」に選ばれた矢沢永吉もパフォーマンス。MIDTIMEに移り、アライアンス・カテゴリーの最優秀賞や海外特別賞などを発表(MCはハマ・オカモト、住吉美紀)。主要6部門の表彰再開後も、賞の発表時には「選考は透明性と公平性を守るため、開票、投票結果をCEIPAが厳重に管理しています」と強調されていました。



Grand Ceremonyの様子。最優秀アーティスト賞を受賞し、パフォーマンスも行ったMrs. GREEN APPLEが登場

5/18～21 CEIPA×TOYOTA GROUP 「MUSIC WAY PROJECT」 Global Co-writing Camp SONG BRIDGE 2025

平安神宮、本山興正寺
京都芸術大学、大西常商店

音楽活動のすべての根源である楽曲制作を、CEIPAとTOYOTA GROUPによるMUSIC WAY PROJECTがサポートする試みが「SONG BRIDGE 2025」。複数のクリエイターが共同で楽曲を制作、多様な視点からアイデアを出し合うことで新しい音楽の可能性を生み出す「コライティング・キャンプ」が行われました。国内外のクリエイター／プロデューサーに加えて、楽曲の提供を受け、歌唱／パフォーマンスすることになるアーティストが集まり、通常のようなスタジオではなく、京都の「特別な場所」で楽曲制作を実施しました。



SONG BRIDGE 2025。平安神宮の尚美館(貴賓館)に設置された機材

※ 各賞のノミネート・受賞作品／アーティストについてはMUSIC AWARDS JAPANホームページをご覧ください



5/21 MUSIC AWARDS JAPAN SOUND SCRAMBLE supported by 京都芸術大学 礫礫、KYOTO MUSE

日本とアジアの音楽を相互に発信するオムニバス・ライブとして企画され、礫礫には、くるり、イ・ラン(韓国)、YONLAPA(タイ)、KYOTO MUSEには、ストレイテナー、打首獄門同好会、Fire EX.(台湾)が出演。MAJのシルバー・パートナーである京都芸術大学の学生が運営に加わり、新たな時代の文化の担い手の発掘も視野に入れた試みになりました。

5/21 MUSIC AWARDS JAPAN 2025 OFFICIAL PARTY MAJ NIGHT PULSE CLUB METRO、WORLD KYOTO KITSUNE KYOTO、FUL KYOTO

MAJ主催のオフィシャル・パーティーが、京都の人気クラブやミュージック・バーの4店舗で開催。日本のクラブ・シーンを築き上げてきたレジェンドから、MAJノミネートの気鋭アーティストまで、豪華なDJ／アーティストが出演。



SOUND SCRAMBLE (KYOTO MUSE)



伊神が行く!

全国へ行く
地元で語る
Vol.5 中部編

HOMETOWN ENT. NIGHT & DAY



撮影：小山昭人 (FACE) 収録日：2025年5月30日

自身も中部地区のコンサートプロモーターである伊神 悟 ACPC 副会長が、全国会員社の皆さんのもとに馳せ参じる連載「伊神が行く!」。お伺いする各エリアのライブ・エンタテインメントをともに考え、時には未来を熱く語り、時には愚痴をこぼし合いながら交流していきます。第5回のエリアは「中部」。伊神副会長が代表を務めるサンデーフォークプロモーションが本拠を構えるエリアでもあり、いわば地元で凱旋する回ですので、今回に限り連載タイトルを「伊神が居る!」にするべきだったかもしれません。中部地区は、東京・大阪に次ぐ人口の大

都市・名古屋を中心に、エリア全体では志摩や鳥羽、富士山、飛騨高山、白川郷、下呂温泉など日本屈指の観光地を有しています。さらには伊勢神宮をはじめ歴史ある有名パワースポットが数多いことでも知られています。そんな中部地区で集まってくださった会員社は、キョードー東海、サンデーフォークプロモーション、ジェイルハウスの3社。各社の拠点となる名古屋だけではなく、中部全体の魅力を地元目線で語り合い、このエリアのライブ・エンタテインメントの課題、さらにはプロモーターの働き方までを深く、じっくりと掘り下げました。

キョードー東海



(左から) 木下明彦／勇元孝介／高須誠也／根津渚



親子で楽しめるトヨタ博物館

中部地方というとトヨタ自動車が有名なのですが、地元の人間にとってトヨタがあるのは当たり前のような意識があって、「トヨタ博物館」にもわざわざ行こうとは思わなかったりするんです。ところが先日、息子と行ってみたら素晴らしかったですね。車が好きな息子には本当に楽しめる場所でした。車の歴史が展示してあって、もちろん最新の車も見ることができるのですが、80年代、90年代の車が並んでいて、僕もノスタルジーに浸れました。(木下)

「熱田神宮」も有名な神社ですが、初詣のシーズンではない夜間に行くと、人が少なく静かで雰囲気がいいんです。以前アーティストの方を案内したら、すごく喜んでくれました。(高須)

私は静岡出身なのですが、静岡には昔からある遊園地「浜名湖パルパル」があって、近くにはジブリの世界に迷い込んだような「ぬくもりの森」という場所があるんです。

伊神のひと言

トヨタ博物館は僕もあるアーティストの方に同行して訪れたことがあります。トヨタの歴代の車が展示してあって、トヨタ2000GTなどはなかなか実物を見ることができないので感動しました。サウナが好きな人はコンサートのスタッフにも結構いますよね。名古屋で有名なサウナは他にウェルビー栄もあります。全国からサウナ好きが集まるそうです。



古い街並みが再現されていて、カフェもあり、そのクラムチャウダーが美味しいんですよ。(根津)

個人的な話ですが(笑)、サウナ好きなので、名古屋駅近くの「サウナモンキー」をお薦めします。お湯をかけて蒸気で熱波を発生させるロウリュ式で、熱波が直撃するボス猿席が特にいいんです。(木下)

名古屋の公演ですと、アーティストもスタッフさんも日帰りが多いので、楽屋の差し入れで名古屋の観光気分をせめて味わっていただいています。「ロッキンロビン」だったら、小さめハンバーガーと軽食。「鬼天」の天むすは、エビだけじゃなくて鶏天とか梅しそ天など変わり種があります。(勇元)

食べに行くなら「煙力」のとりタンをお薦めします。(高須)

「縁食堂」の牛カツも美味しいですよ。(根津)

「馬力屋」はがっつりニンニクで、パンチ力がすごい焼肉屋さんで、コスバも最高です。大人気店なので予約必須になります。(勇元)

サンデーフォークプロモーション



(後列左から) 泥谷公貴／北村綾菜／東まり菜／松田まみ
(前列左から) 鷲尾香音／猪股美彩紀／遠藤菜月



喫茶店文化と「びよりん」

「大須商店街」は名古屋名物があったり、神社もある活気に溢れた商店街です。コンサートで名古屋にいらして立ち寄る方も多いと思います。(猪股)

ラッコのキラちゃん・メイちゃんが有名な「鳥羽水族館」。ラッコがいる水族館は国内唯一だそうです。(北村)

「伊勢神宮」では「コンサートが楽しめますように」とお祈りをしています。仕事というより、自分がサンアリーナ（三重県伊勢市）へ観に行く時、当日に席の抽選が発表されるので、会場に行く前に「いい席だったらいいな」と願うするんです(笑)。お薦めは秋にライトアップされた「香嵐渓」。紅葉の絶景を楽しみながら、五平餅や刀削麺を食べられます。(東)

桜の名所では「鶴舞公園」「名古屋城」。食事では今池駅近くの中華料理「ピカイチ」が美味しいです。(鷲尾)

岐阜にあるおそば屋さん「更科」は老舗で

伊神のひと言

伊勢神宮は間違いなく日本を代表する神社でしょう。観光地としても五十鈴川沿いが整備され、おかげ横丁ができて発展しました。ただ、ちょっと残念なのは伊勢神宮に行く観光客の皆さんは名古屋に滞在してくれないです。東京からお伊勢さんに来たら、そのまま京都や大阪に行き泊まる人が多いようです。名古屋近辺にも名所はたくさんあるので、東京と京都・大阪がインパウンドのゴールデンルートになっているので、名古屋にも遊びに来てほしいです。

風情があるお店です。(遠藤)

岐阜に行ったら必ず「更科」の冷やしたぬきは食べたくなりますね。(北村)

東区筒井の「岩正」も昔ながらのお店。味噌煮込みうどんや味噌カツ丼が名物です。(松田)

「JAZZ&COFFEE YURI」はチキンライスが美味しい。特に有名ではないですが、知る人ぞ知る、地元の人に愛されている喫茶店で。「串カツラブリー」もお薦めです。(泥谷)

喫茶店では「喫茶ボンボン」。インスタ映えするレトロなプリンや、色々なケーキがあります。「ユウゼン」はあんかけスパゲティのお店ですが、1人前がとても多いです。(東)

「びよりん」というヒヨコの形をしたお菓子があるんですが、ムースなどでつくられているので、やわらかいです。やわらかすぎて家まで持って帰る時に崩れやすいので、きれいに持ち帰れるかどうかを「びよりんチャレンジ」と呼んで流行っています。うまくいかなくてもSNSで「形が崩れちゃった」と写真で上げている方も多くて。成功しても何かもらえるわけではありません(笑)。(北村)



ジェイルハウス



(左から) 石川岳志／後藤明日奈



花火あり、パクチャーもあり

日中でも夜間でも、名古屋の「鶴舞公園」はのんびり過ごすことができるので好きなんです。歴史ある公園で、桜をはじめとした花の名所でもあります。夜ご飯を食べるなら名古屋の東区のタイ屋台料理「東桜パクチャー」ですね。パクチャーたっぷりの本場の屋台料理が楽しめます。(石川)

あまり中部地方に花火のイメージはないと思いますが、花火を堪能できる大会があるんです。三重県の「熊野大花火大会」は海を背景に半円状に打ち上げられる花火や、2、3箇所から一斉に上がる花火が圧巻です。七里御浜海岸から観ることができ、花火は鬼ヶ城の洞窟からも打ち上げられます。

静岡県の「森町納涼花火大会」は来場者数も花火の発数も少なめで小規模ではありますが、打ち上げ場所が目の前にあるため、どこよりも間近で見られてすごい迫力なんです。花火を満喫できる穴場だと感じてい

ます。本当に目の前で花火職人の方が打ち上げているの見えるくらい近いんですよ。

観光スポットでは静岡県浜松市の「竜ヶ岩洞」。全国的にも有名な鍾乳洞で、とても大規模なものです。もちろん、訪れる人は鍾乳洞を観に来るわけですが、個人的にはここの売店にあるジェラートが美味しくて、子供の頃よく行っていた思い出があります。(後藤)



伊神のひと言

なぜか名古屋のパクチャーの話をしますが、以前、女子大小路に「亜鹿猪〜珍」（あかしょう〜ちん）というパクチャー屋さんがあったんです。ここはとにかく料理に全部パクチャーが使っていて、パクチャー好きならたまらないパクチャー居酒屋さんでした。不思議なことにこのお店が全国のパクチャー好きの聖地になっていましたね。どこで何が名物になるかは分からないものです。今、このお店は移転して「カムウン東桜」として活躍中です。



テーマトーク 中部地区に共通している「問題」

●とにかく忙しい問題

キョードー東海・木下 これは解決できないでしょうし、皆さんにも共通していると思いますが、とにかく忙しい(笑)。単純に時間がない。僕は2歳の子がいるんですけど、子どもと過ごす時間がないという悩みがあります。

伊神 子どもと過ごす時間……これは確かに悩ましいですね。公演は今、土日に集中しているじゃないですか。さらにゴールデンウィーク、夏休みシーズン、年末年始と、フェスも加わって現場が集中してくる。要するに子どもが家にいる時に、自分は家にいられない。余計に子どもと接する時間がとりづらいということですね。

●改装中問題

ジェイルハウス・石川 中部地方在住のバンド、出身のバンドを世に送り出していく役割を担っているのは本当にありがたいですし、やりがいも感じていますが、いざ、実際にイベントを企画したりすると、最近ではホールの改装などが重なり、使用できる会場が少ないことには悩まされています。例えば名古屋国際会議場のセンチュリーホールが長らく改装中で、代わりに半分くらいのキャパの会場を2days押さえようとするのですが、各社が同じようなプランで抽選に殺到してしまうので、より難しくなっています。

サンデーフォーク・猪股 代替会場はアクセスが悪い会場が多く、お客さんやスタッフさんにも移動などで負担をかけ、タクシーの配車の台数制限もあって苦戦しています。

伊神 アリーナツアーではメインの会場になる日本ガイシホールも、2026年のアジア・アジアパラ競技大会に向けて、約2年間かかる改修工事中なんです。現時点で名古屋は、本当に会場不足が深刻。アクセスの不便さは、例えばポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)は関東でいう幕張メッセ

のような展示場ですから、一気にお客さんが集中して入退場する動線になっていない。さらに悲しいかな、ポートメッセなごやの最寄り駅は、あおなみ線という路線の駅で、輸送力的にはとても追いついていない。これは本当に大きな問題として捉えています。

●「名古屋飛ばし」問題

キョードー東海・勇元 ツアーで名古屋飛ばしになることがあり残念です。

サンデーフォーク・北村 東京・大阪だけという公演もあるが、最近は札幌や福岡で開催があるのに、名古屋公演がないこともあり、悲しい気持ちになります。

伊神 「名古屋飛ばし」の実態は、アーティスト側が意図して名古屋を飛ばしているわけではなく、「ちょろどいいキャパの会場がなかったり、空き日がなかったりして、名古屋に行けなかった」ということだと思います。要するに会場がないから、「名古屋飛ばし」というより「名古屋あきらめ」が起きているんですよ。中部経済連合会の調査結果が新聞に発表された時、SNSのトレンドにも「名古屋飛ばし」というワードが入りましたが、愛知県の人口流出が加速している背景を、エンタメの名古屋飛ばしで象徴的に説明している内容になっていて、残念な気持ちになりました。人口流出は愛知県だけの話ではないのに、どうして名古屋だけエンタメの話と簡単に結びつけるのだろうか。リアルエンタメの提供側はなんとか名古屋、東海エリアでできないかということを検討してくれて、様々に実現する場合もあるわけですから。実現できない場合は飛ばされた訳ではなく、ひとえに会場不足と、抽選をはじめとした会場のシステムが原因だと思います。稀に、僕の力不足でブッキングできなかった例も過去にはありましたけど…。後は名古屋人の特性。「どうせうちなんかやってくれんわ」と自虐的になったりもするんです(笑)。

フリートーク&打ち上げ

今回の中部編は、伊神副会長にとって自社の社員を含む地元でのトークということもあり、グループ・インタビューは「コンサート業界の働き方」について、かなり深いところまで及ぶ意見が交わされました。

伊神 全国的にコンサートの現場で女性スタッフが増えていますよね。プロモーターもそうですし、照明や大道具さんにもいらっしゃいます。これはとても良い傾向だと思っていますが、現場で働く女性達が今後も長く同じ仕事を続けられるかという、まだ課題は多いですね。

サンデーフォーク・猪股 私は制作部所属で、現場にも出ていますが、将来的に結婚して、出産や育児を仕事と両立できるかという、キャパの容量的に難しいところがあるとは思っています。

伊神 コンサートの仕事は属人的じゃないですか。もちろん会社と会社で行うものでもありますが、人と人とのつながりで成り立っている部分も大きい。例えば育児休暇で長く休む人がいたとして、会社としては代わりの担当者を用意するんですが、復帰してからの担当をどうするのかといったこともありますから。

サンデーフォーク・猪股 続けていくためには休暇をいただいて、復帰後は内勤として会社を支えていくという道筋もあるかなと最近考えて

います。アイデアとしては、毎月この日は仕事、この日は休みという予定が明確に分かっていれば、両立できる可能性も残るかもしれません。

伊神 僕が自社の人間ばかりに聞いていると社員面談みたいになるので(笑)、他社の男性の方の意見も伺います。

キョードー東海・木下 一度現場を離れて戻ってくるのは、今のところ現実的ではないかもしれませんが、2年の間でも、アーティストやバンドを取り巻く環境は劇的に変わっていきますから。

サンデーフォーク・北村 予定さえ決まっていれば、対応できる可能性はあると思います。自分が夜に現場に行かないといけない時、どこに子どもを預けるかが、一番現実的な問題だと思いますので。

伊神 あくまで可能性として、時間と勤務日の問題だけクリアされれば、新しく女性の現場での働き方の扉は開くかもしれないということですね。やはり業界全体で変えていかなくては行けない問題です。先程「属人的」といいましたが、人と人とのつながりがあるから、この仕事は楽しいという面もあるじゃないですか。そのやり甲斐を担保しながら、最終的には働く人達が健全に豊かな人生を歩んでいけるようにすることが、コンサート業界の大きなテーマだと思います。



打ち上げ会場は新栄町「くるみ」。「ジャガイモバター」「和牛すじで煮」「もやしいため」などの名物も美味ですが、壁に貼られたアーティスト達のサインを見るだけでも楽しいお店。写真は「げそいため四八〇円 中島ゆき四八〇円」の伝説のサイン。ACPC 事務局から参加の田村華奈子(本誌担当)、横塚啓子、尾花理子を含めた交流の後、中締めとなりました



「使う側」の経験値を活かしたライブハウス型ホール 名古屋に誕生した COMTEC PORTBASEの設備と発想

撮影：小山昭人 (FACE) 収録日：2025年5月30日

スタンディング使用時2,244名、座席使用時1,070名。名古屋に新たなライブハウス型ホール、COMTEC PORTBASEが誕生、2025年3月20日に開業しました。同所を立ち上げ、運営を手がけるのはサンデーフォークプロモーション、アミューズ、在名テレビ局5社などが設立した合同会社ポートベイス。コンサートプロモーター、プロダクション、地元テレビ局といえば、コンサートや演劇、イベントを主催・運営する立場。通常は「会場を使用する側」である各社が立ち上げたCOMTEC PORTBASEは、どんな会場になったのでしょうか。合同会社ポートベイスのCOMTEC PORTBASE館長、野口裕之さんにお話を伺いました。

ステージと客席の特徴

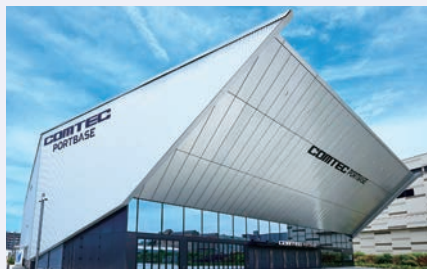
野口 まず客席を含めた会場の構造ですが、基本的にはライブハウスの仕様になっています。スタンディングでも椅子席でも

できるという、客席のコンセプトは基本的にはZeppさんなどと同じだと考えていただければと思います。プラスしてCOMTEC PORTBASEは、ステージの間口が広かったり、奥行きに余裕があったり、天井の吊り物の部分で追加の仮設ボタンを付けられるところに特徴があります。またウィング、脇の花道があることで、演劇やミュージカルなどにも対応できるようになっています。特に若い観客の皆さんが集まるライトな感じのお芝居には向いているんじゃないでしょうか。実際にいくつかお芝居の公演予定が入りつつあります。

音楽のライブの時とお芝居の時の兼ね合いも考える必要が出てきますが、例えばステージは通常より20センチ程低くなっているんです。一方で客席は段差を3段階設けています。お芝居の時のお客様の観やすさ、ロックバンドの時のスタンディングのライブ感を考えて、うまく調整していきたいです。



お話を伺った野口裕之 COMTEC PORTBASE 館長



COMTEC PORTBASEの外観。入口前は広場になっている



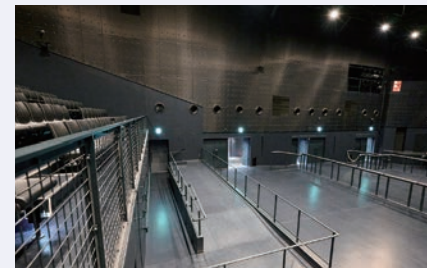
後方からステージを臨む客席全景

ですね。

客席部分の特徴をさらに挙げると、お身体の不自由な方、車いすのお客様に配慮して、後ろのほうに見やすいバリアフリー・スペース、前方にも車いす用のスペースを用意しています。チケットを売る側からすると、その部分も客席を設置したい気持ちもありますが、お客様からの要望を踏まえて、すべてのお客様と同じ空間で楽しめるようにキープしました。車いすの方には同行される方もいらっしゃると思いますので、一緒にそこで楽しめることを考えてつくられています。その他にも椅子に座るお客様の居心地が少しでも良いようにクッションを用意したり、授乳室を設置したりといった点は、出資者がこの顔ぶれだから生まれた発想だと思います。名古屋は以前から会館・ホールクラスの会場が不足していましたが、そんな中で使う側が必要とする会場を立ち上げたということだと思います。



楽屋に隣接したバーベキューもできる庭



段差のないスロープを上ったところに車いすスペースがある

立地的には、東邦ガスが開発を進める、みなとアクルスというスマートタウンの中にあり、隣はショッピングパークのららぽーと、北側に3棟目を建設中のマンション、その隣にアリーナの建設の予定もあるようですから、まさに新しい街づくりの真っ最中の場所です。コンサート会場は公道と隣接していて、お客様に会場の外で待機していただく場所がなかったりしますが、こちらは正面に大きな広場がありますし、前後の時間をららぽーとで過ごしてもらうことができますので「街の一部」であることのメリットを感じています。ただし名古屋在住の方からすると、この場所は遠いというイメージなんです。というか、名駅と栄以外はすべて遠いと思われる（笑）。実際には名古屋駅から30分、栄からは20分で来られるんですけど。その意識を変えていただくためのアピールは必要だと思っています。



1階には授乳室も設置

全国会員社 担当業務別ミーティング 公演担当者座談会

収録日: 2025年6月17日

毎号、全国会員社で同じ業務を担当する皆さんをオンラインで結んで行っている座談会、今号は公演担当の皆さんに参加いただきました。コンサートの現場で会場とアーティスト、様々なジャンルのスタッフをつないでステージをつくり上げている4名の方のリアルな声をお届けします。また座談会には、オブザーバーとしてACPCの田山順一常務理事も加わりました。



佐藤 龍太郎

ウエス（北海道）／2024年入社



古川 嗣久

ポニーキャニオン（東京）／2020年入社



芋縄 飛悠吾

ソーゴー大阪（大阪）／2022年入社



田川 大我

ビッグイヤーアーツ（福岡）／2010年入社

入社に至る「ライブ体験」

—— 入社するまでの経緯と、現在の業務をお伺いしたいと思います。

佐藤 僕は2015年、小学6年生の時からRISING SUN ROCK FESTIVAL in EZO（以下、ライジング）に行っていましたので、その主催会社である弊社で仕事をしたいと

思っていました。専門学校を卒業後、希望がなくなって2024年に入社することができました。入社からまだ間もないので、基本的に他の社員の担当する現場に入って業務をしています。具体的には、制作さんから来た手配書の内容に沿った物の発注やアルバイトの手配、当日の運営まわりに関わっています。

古川 僕は大学でアカペラ・サークルに入っていたのですが、活動しているうちにステージに立つ側より、ライブをつくる側の仕事をしてみたいと思うようになりました。2020年の入社以降、ずっとライブ制作の部署におりまして、現在はアーティストやコンテンツの担当を複数持っています。これまでボカロPや歌手、音楽アーティスト、声優アーティスト、アニメ・コンテンツのイベントなど幅広く担当してきました。レコード会社が母体のライブ制作部門ですので、ライブのみ請け負っているアーティストもいれば、マネジメントからリリースまですべて行っている場合もあります。

芋縄 音楽に興味をもったのは、中学生の頃にダンス＆ヴォーカル・グループのライブを観てからでした。その後、短い期間ですがダンスを習っていたこともあり、例えば文化祭のダンスが必要なステージに出演していたりもしました。そんな時にサポートしてくれる先生やスタッフの方々に接する機会もあり、自分もダンスをするよりス

タッフ側の仕事がしたいと思うようになりました。音楽専門学校のスタッフ・コースに入って、音楽業界には色々な職種があることを知りましたが、ソーゴー大阪の採用募集を見たのをきっかけにして、2022年に入社することになりました。現在の主な業務内容は、会場の押さえや手配書の確認・発注などです。自分がダンスをやっていた経験が活かえているとするなら、ステージに上がるアーティストの気持ちがほんの少しだけ理解できるということでしょうか。

田川 僕は大学時代から弊社でアルバイトをしていて、そのまま社員になりました。2010年の入社当時は、現場運営が主な仕事だったのですが、現在は社歴が長い分、自分で担当している公演もいくつかあります。それこそポニーキャニオンさんが制作されているアーティストも担当させていただいていますし、上はフォーク世代の方から、下は若いロック・バンドまで幅広く手がけています。



佐藤さんが勤めるウエスが主催した「RISING SUN ROCK FESTIVAL 2024 in EZO」（北海道石狩市・石狩湾新港樽川ふ頭横野外特設ステージ／2024年8月16日～17日）



古川さんが勤めるポニーキャニオンが手がけた「内田真礼 10th Anniversary Live Tour "TOKYO-BYAKUYA"」(東京都立川市・TACHIKAWA STAGE GARDEN / 2024年11月30日)

「できる」or「できない」

—— 現在、担当されている業務で特に難しいと感じる点、逆にやりがいを感じる点がありましたら教えてください。

佐藤 まだ僕は各会場の構造の違い、会場による仕事の進め方やルールの違いを把握しきれていないところがあるので、現場に出る度に「ここまでやるべきなんだ」と学んでいます。そんな中でも場内警備として会場に入って、お客さんが盛り上がっているシーンを体験すると、この仕事にやり甲斐を感じますね。

古川 立場上、アーティストとスタッフの間に立つことも多く、どちらの意見も理解しつつ、折衷案を探っていかなければいけないところが難しいですね。例えばアーティスト側から演出上の希望が挙がってきた時、予算や会場のルールを踏まえた上でどう戻すか、という場面があります。ただ「できません」と突っぱねるのではなく、テクニカル・チームと相談して代替案、理想

をいえば「このアイデアは難しいですが、予算がクリアできれば、こんな可能性はあります」と松・竹・梅の3パターンくらいを出したいとは心がけています。弊社はコンサートの制作を担う立場でもあり、コンテンツフォルダーの場合もあるというポジションなので、少し特殊な面はあるかもしれませんが。コンサートプロモーターはもちろん、舞台監督、音響、照明などの皆さんが、そのアーティストの活動に密接に関わっているわけですから、会場で起きていることをアーティストご本人にどのように伝え、スタッフ全体でどう情報共有するかに日々頭を悩ませています。

やり甲斐としては、アーティストのツアーに帯同した時、ライブが終わってアーティストや一緒に回ったスタッフさんから、「また次も担当してほしい」とおっしゃっていただけると、本当にうれしいですね。身近な方からの感謝の言葉は、ありがたいです。

芋縄 私はまだ入社4年目なので、難し

いと感じることは多いです。アーティスト側に会場の日程を提出した時、なかなかスケジュールが噛み合わなかったり、当日会場で緊急なことが起きた時の対応だったり……うまくいかないことはたくさんあります。時間との勝負が一番大きなところだと思いますので、自分の言葉で解決策を出せるのか、無理な場合にはっきりと「できない」と言うのか、そのメリハリをつけることにすごく気をつけています。それでも会場で舞台を組み立てるところから立ち合って、ステージが終わって最後は更地になるところまで見届けると「ああ、今日もなんとか無事に終わった」とホッとします。

田川 最近、チケットを売ることの難しさを改めて感じることも多いです。インターネットが普及したことにより、アーティストが自ら発信できる世の中になって、欲しいチケットを取ることもについても、今のお客さんは直接アーティストを見ていると思います。お客さんがチケットのためにプロモーターのことを見ていた時代から変わりつつあります。そうすると各地の

プロモーターは、チケットを売するためのプロモーションについても様々な提案をしていかないと、存在価値を維持するのは難しくなってきますよね。僕らのことでは例えば九州のスペシャリストにならないといけないと思います。お金をかけるプロモーションにせよ、そうじゃない場合にせよ、積極的に提案ができるようになりたいとは常々思っているのですが、皆さんと同じく忙殺されている中で考えていく必要がありますので、日々戦いながらというか、ジレンマを抱えながら毎日やっています。

やり甲斐の話では、例えば会場のこけら落としなど、前例がなく、正解がない中で、関わった全員が探りながら進めていく公演が成功した時などは、本当に良かったと感じます。昨年の長崎スタジアムシティのこけら落とし、福山雅治さんのフリーライブは印象深かったです。主催はジャパネットグループさん(主催:ジャパネットホールディングス/企画制作:リージョナルクリエイション長崎、リージョナルエックス長崎)なのですが、運営全般とアーティスト



田川さんが勤めるビッグイヤーアーツが主催/企画・制作した「CIRCLE'24」(主催は他にテレQ、TONE。企画・制作は他にTONE / 福岡県福岡市・海の中道海浜公園 野外劇場 / 2024年5月18日~19日)

まわりのケアをお手伝いさせていただき、大変勉強になりました。

蓄積とアップデート

—— 現在の業務をよりスムーズに進行させるためには、どんな改善点があると思いますか。

佐藤 北海道という土地柄もあると思いますが、イレギュラーなことが結構あります。基本的に道外から飛行機でしか入れないので、状況によって急に新千歳ではない空港にアーティストが降りることになったり、車両での迎えの手配も必要になったりします。そんな時に冷静に対応できるようになりたいのですが、まだまだ力が足りない、いつも痛感させられています。時間内にできることとできないことの線引きを判断できるようになることが、あくまで個人的な話ですが自分なりの改善策になると思います。

古川 自分の中の引き出しをもっと増やしたいと思います。アーティストから提案があった時、先程もお話したように各所に確認をしてアーティストに戻すという流れなのですが、自分の中に情報や選択肢が蓄えられていればスピーディーに物事を進められると思います。周囲のプロフェッショナルの方に確認することも大事だと思いつつも、もう少し改善していきたいと考えています。

芋縄 プロモーターは、公演ごとでしか出会わない方々と仕事を進めることも多いので、限られた時間の中でどれだけ係性を深められるかを考えていければと思います。ステージのスタッフや舞台監督の方もそうですし、アーティスト側のプロダクションの方もそうですし。例えば何かがすぐに必要になった時、通常ではそういう話は制作会社を通して入ってくるんですけれ

ど、ステージに関わる人達全体と普段からコミュニケーションをとれていると、随時こちらにも情報が入ってきて、スムーズに対応ができたりします。ちゃんと関係性が築けていると、小さな問題にも気づくことができるので大事だと思います。

田川 現場を重ねていくと、経験から自分で判断できる範囲は広がっていくのですが、やはり確認しないといけないことは、いつになっても残っていくと思います。例えば会場との取り決めなどは、この間はOKだったのに今回はダメということが多々あるので、アップデートは常にしていかなければいけないですね。大事なことはコミュニケーションといいますが、芋縄さんがおっしゃったようにしっかりコミュニケーションを取って関係性を築くことはすごく大事だと思います。

田山常務理事 今日はありがとうございます。僕は1987年にキョードー東京に入社して、皆さんと同じ立場でずっと仕事をしてきたので、お話を聞きながら昔も今も変わらない悩み、最近ならではの悩み、両方を確認できました。最近は分業化が進み、いろいろとセクションも増え、その分仕事が増えると言うことはなく、大変になることが多くなっていることでしょう。『何で自分が巻き込まれるのだろう』と思うことも多いかと思いますが、ぜひ積極的に巻き込まれて欲しいなと思います。公演の中心に自分たちがいるのだという意識がちょっとずつずれてきている気がします。ぜひ、この公演の中心に自分がいるのだということを精神的にも、実質的な動きとしても、その意識が基本にあることがこの仕事のたのしみであり、やりがいであるのでぜひやり続けて欲しいなと思います。



連載

ECSA Lounge

新設スタジアム・アリーナ関連の事項を中心にECSAより活動報告

ECSA Lounge

活動報告

2025年度 第一回社員総会・理事会実施報告

去る6月23日に、2025年度の第一回社員総会・理事会を実施、24年度の事業報告、及び25年度の事業計画が報告されました。2025年度は第7期となり、昨年度に引き続き、業務委託契約締結先の施設建設に関するコンサルティング事業を中心に、立地・規模の観点から、需要の高い施設への注力を主に、施設仕様に関するアドバイザリー事業を展開していきます。

2024年度活動報告サマリー

- ① **コンサルティング事業**
業務委託契約先と施設建設に関する検討会を重ねる
- ② **セミナー**
第11回 ライブ・エンターテインメントEXPO 特別講演への登壇
- ③ **スポーツ庁事業参画**
スタジアム・アリーナ改革ガイドブック検討会への参加(田山マネージャー)
- ④ **視察機会**
ACPC主催の人材育成研修会へ参加(長崎スタジアム・シティ)
- ⑤ **独自サロン: Salon de ECSA**
2023年のエンタテインメント業界動向につき、関係社各位へ共有
- ⑥ **A.C.P.C. navi 内連載**

2025年度注力事業

- ① 業務委託契約先とのプロジェクトに引き続き注力。
有識者によるワーキンググループを体制化する
- ② 真に必要とされる、後世に残すべき施設に注力し、業務委託先の拡大を図る
- ③ エンタテインメント・スポーツ界の情報交流をより潤滑にする

今年度も、ECSAの活動により、スポーツ界とエンタテインメント界の情報共有・協力体制が、更に円滑に、そして活性化されていくよう、今年度も各事業を推進していきます。



6月23日に行われた2025年度の第一回社員総会・理事会

ECSAに関する
お問合せは
こちらより
※ ECSA 事務局



帰ってきた

TALKING BLUES

Vol. 40

文：鏡 孝彦 ACPC専務理事
(グリーンズコーポレーション代表取締役社長)



WEEK、そしてWEEK

「わい えむ おう」いや～、Opening Showの5分20秒くらいでやられてしまった～！NHKでご覧になられた方も多いと思いますが、“MUSIC AWARDS JAPAN”ほんまに素晴らしい1日でした。ちやうちやう1日ではなく、WEEKでした。演歌・歌謡曲の授賞式、Premiere Ceremony、Grand Ceremony、国際会館でのYMOトリビュート、SOUND SCRAMBLEやGala Partyなど盛り沢山でしたので、始まるまでは、少しヤキモキしておりましたが、素敵なアーティストの皆様のパフォーマンス、そして、楽曲の素晴らしさを改めて感じさせていただき、ヤキモキも吹き飛ぶWEEKでした。ロームシアターから見たレッドカーペットと緑の山々、お寺。あの風景は忘れません。京都で第1回を行えた事、皆様の心に残る筈です。アーティストの皆様、スタッフの皆様、関係者の皆様、お疲れ様でした。そうそう、ACPC関西支部会の会員社の社員の皆様も長期間、ありがとうございました。

6月に入ると大阪城ホールで“OSAKA MUSIC EXPO 2025”が開催されまし

た。大阪では、官民が協力して文化芸術活動の継続支援や魅力の発信に取り組み、音楽シーンやエンタテインメント文化を育んできました。今回も音楽で大阪を訪れる国内外の人々が一緒に大阪の文化芸術の魅力を体感していただく主旨で5日間、多彩な出演者の方々によるWEEKとなりました。主催者の一員としてACPC関西支部会も参加をいたしました。最終日には、大阪府知事、大阪市長、ミyakumiyakもステージに登場し、客席を盛り上げていただきました。意外と（と言うと失礼ですが）ミyakumiyakは、どの世代の方にも人気が高くなってきております。グッズも何種類もある様です。

ところで事務局のたむびす（※1）、ミyakumiyakは、何で出来てるか、知っています？ 特技は、「色々な形に姿を変えられること」らしいです。

※1：たむびすとは、田村+カルピスです。カルピスが好きでずっと飲んでいたので、鏡専務理事に素敵なあだ名を付けていただきました。大変光栄でございます！ ありがとうございます。ACPC事務局 田村

navi ARENA ACPCからのご報告、音楽業界のビジネス・ニュースをお伝えする情報アリーナ

▶ 令和6年度ACPC定時社員総会報告

6月19日、東京国際フォーラムG409会議室にて、令和6年度ACPC定時社員総会が開催されました。当日は令和6年度の計算書類承認や事業報告、令和7年度の事業計画・収支予算報告を行いました。



▶ 新規加盟社紹介

■ 正会員

2025年6月入会 (株)アーツイノベーター・ジャパン

※ 2025年7月時点の会員数は正会員80社、賛助会員135社です。

▶ スタッフ連合会が会員向けセミナー「ライブエンタメにおける労働環境整備について」を開催

6月2日、一般社団法人日本舞台技術スタッフ団体連合会（略称：スタッフ連合会）による会員向けセミナーが建築会館ホールにて開催され、ACPC田山常務理事がパネリストのひとりとして登壇いたしました。

本セミナーは「ライブエンタメにおける労働環境整備について」というテーマで、ライブエンタメ業界に携わる8名のパネリストが、6月より対策

が義務化された熱中症、ヒヤリハット、労働環境の整備について、パネル形式でディスカッションを行いました。また、質疑応答の時間も設けられ、参加者から様々な意見が寄せられていました。

セミナー後には懇親会も開かれ、ACPC中西会長が乾杯の発声を務めました。参加者同士の活発な交流が行われ、貴重な情報交換の場となりました。

(次ページに続く)

セミナー登壇者（パネリスト）

一般社団法人日本舞台技術スタッフ団体連合会 理事長 横田 健二氏
一般社団法人日本舞台技術スタッフ団体連合会 副理事長 長野 慎梧氏
一般社団法人日本舞台技術スタッフ団体連合会 副理事長 山下 雅也氏
一般社団法人日本舞台技術スタッフ団体連合会 監事 藤井 修三氏
株式会社横浜アリーナ 営業部 専任部長 大西 徹氏
株式会社さいたまアリーナ 事業部次長 平川 邦彦氏
株式会社幕張メッセ 企画部門 企画部長 押田 敏明氏
一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 田山 順一 常務理事



セミナーの様子



懇親会で乾杯の発声をする ACPC 中西会長

➤ 能登視察報告

4月23日、石川県能登地方の視察をさせていただきました。4月より弊会の新入職員となりました尾花理子と齋藤裕太も視察に参加いたしました。

実際に現地を訪れ、目で見て、耳で聞き、肌で感じたこと——。2人が視察を通じて得た知見をまとめたレポートをお届けします。

改めまして、このたびの視察に際しお世話になりました皆様に、心より感謝申し上げます。

震災の爪痕と復興の兆しに触れて

今回の能登視察では、2024年元日に発生した能登半島地震の被災状況を確認し、現地でしか分からない空気を感じてきた。

朝市の現状

人々の交流の場として平安時代から1400年の歴史を持つ「日本三大朝市」の一つである輪島朝市の様子は、地震の爪痕の深さを物語っていた。

地震による火災で建物一帯がほとんど焼失してしまったことから書類や通帳なども残らず、実質的な組合の運営は不可能となっている状態だが、現在は中部地方を中心に東京、大阪など全国で『出張輪島朝市』が開催され、朝市の人々が紡ぐあたたかさはどうにか保たれている。



輪島キリモトの輪島塗

能登には魅力が沢山！中でも有名な輪島塗。今回輪島塗り工房「輪島キリモト」さんを訪問し、製作の様子や、様々な作品を拝見した。

輪島塗の特徴は、石川県輪島市特産の地の粉を用い、専門の職人による数多くの生産工程を経て、幾重にも塗り重ねられた漆、それを引き立てる加飾による芸術的な美しさにある。

キリモトさんは漆器だけではなく、現代の雰囲気にも溶け込んだ温かみのある家具などの製作も行っている。



視察を終えて

2024年元日に発生した能登半島地震は、地域の暮らしや産業に大きな被害をもたらしました。しかし、現地では少しずつ復興に向け歩み始め、職人の方々は作業場を仮設で再開し、地域の人々も観光客を迎え入れる準備を進めています。被災地を訪れること、伝統工芸品を購入すること、それぞれが復興への力になっていくと思っています。その一人ひとりの行動が、明るい未来へと繋がる大きな力になっていくのではないのでしょうか。（尾花理子）

「石川で大きい地震が起きた」と自分の中でぼんやりとした他人事で終わっていた正月の出来事が少しずつ解像度を上げていったのは、実際にその惨状を自らの目で見たことはもちろんだがそれ以上に、そこに生きる被災した人々の決して再建を諦めることのない強い意志を生で感じたことにある。そうして被災前に戻ろうとすることはつまり、これまで築き上げてきたものを絶やさずに後世へと繋いでいくことであり、伝統とはこうした人々の想いのもと継がれてきた、そしてこれからも継がれていくのだと思う。いつか訪れる『もとよりもっと 新・輪島』の創造のその日まで、今ある人々の心の奥底にある熱を、決して絶やしてはならない。（齋藤裕太）

➤ 令和6年能登半島地震支援義援金報告（続報）

令和6年能登半島地震により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

ACPCでは全国の正会員が開催する公演の会場にて募金箱を設置し、ご来場の皆様より義援金を募っております。

本誌54号にて2024年11月までにお預かりした金額等をご報告しましたが、その後2025年4月までに新たに1,869,832円の義援金をお寄せいただき、石川県に寄付いたしました。これまでににお預かりした義援金は合計9,132,018円、寄付金額はACPCからの拠出金3,000,000円と合わせて総額12,132,018円となっております。

また、被災地の現状や令和6年9月に発生した奥能登豪雨による被害の拡大を受けまして、現在も募金活動は継続しており、後日追加の寄付を行います。

皆様の温かいご支援、ご協力に感謝を申し上げるとともに、被災地の1日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。

▶ 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 団体概要

コンサートプロモーターズ協会 (ACPC)は、音楽を中心としたライブ・エンタテインメントを主催する、全国のプロモーターで構成される一般社団法人です。ライブ・エンタテインメント産業のさらなる発展を目的として、各種の公共事業を実施しています。

当協会は、「社団法人全国コンサートツアー事業者協会」として1990年、コンサート事業者の産業的基盤の確立と、音楽産業の健全な発展に寄与することを目的に設立されました。2011年4月1日付で一般社団法人に移行し、協会名称を現在の「コンサートプロモーターズ協会」に改めました。

2012年以降は様々な諸問題に取り組むなか、会場不足問題を契機にライブ・エンタテインメント議員連盟が設立され、2018年にはチケット不正転売禁止法の成立に至りました。

2019年には「スポーツ界×音楽界」のタグとして、日本トップリーグ連携機構と当協会で行った新団体の Entertainment Committee for STADIUM・ARENA (ECSA)を設立し、より良いスタジアム・アリーナ環境の整備をめざしています。

2020年以降のコロナ禍では、公演の再開と事業者の支援を目的として国・関係省庁・行政・自治体と協議を行うほか、「音楽コンサートにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」の策定、音楽関連団体と連携した「Music Cross Aid」基金の創設、ワクチン職域接種、共同声明の発表などを行っています。

ACPCの団体内組織として、本会加盟正会員の招聘プロモーター10社による協力組織、インターナショナル・プロモーターズ・アライアンス・ジャパン (IPAJ)を2021年に設立。2022年には関西エリアの正会員を中心としたACPC関西支部会を設立しました。

【事業概要】

- ① [ライブ・エンタテインメント事業に関する調査・研究](#)
- ② [ライブ・エンタテインメント事業に関する研修会・セミナー等の開催](#)
- ③ [ライブ・エンタテインメント事業に関する教育及び就職支援事業](#)
- ④ [ライブ・エンタテインメント事業に関する情報の収集及び提供](#)
- ⑤ [ライブ・エンタテインメント事業に関する内外関係機関等との交流及び協力](#)
- ⑥ [ライブ・エンタテインメント事業に関する知的財産権の維持・管理及び保全](#)
- ⑦ [ライブ・エンタテインメント事業に関する音楽著作物の使用許諾申請及び楽曲報告等の手続代行業務](#)
- ⑧ [ライブ・エンタテインメント事業に関する苦情処理及び相談](#)
- ⑨ [ライブ・エンタテインメント事業に関する各種代行業務](#)
- ⑩ [その他この法人の目的を達成するために必要な事業](#)

▶ コンサートプロモーターズ協会 正会員一覧

北海道

(株)ウエス／(株)キョードー札幌／(株)道新文化事業社／
(株)トラスト企画クリエート／(株)マウントアライブ／(株)ミュージックファン

東北

(株)エドワードライブエンターテインメント／(株)キョードー東北／
(株)ギルドネクスト／(株)ジー・アイ・ピー／(株)ノースロード・ミュージック

関東

(株)アイエス／(株)iTONY ENTERTAINMENT／(株)アーツイノベーター・ジャパン／(株)アリノワ．／
(有)ヴィンテージロック／(株)ウドー音楽事務所／(株)エアーフラッグ／
エイベックス・ライブ・クリエイティヴ(株)／(株)エニー／(株)エル・ディー・アンド・ケイ／(株)オデッセー／
オフィス・ゲンキ(株)／(株)キャピタルヴィレッジ／(株)キョードー東京／(株)キョードーファクトリー／
(株)キョードープロデューサーズ／(株)キョードー横浜／(株)クリエイティブマンプロダクション／
(株)グリーンルーム／(株)サンライズプロモーション東京／(株)スペースシャワーネットワーク／
(株)スマッシュ／全栄企画(株)／(株)ソーゴ東京／(株)チッタワークス／(株)ディスクガレージ／
(株)テレビ朝日／(株)ネクストロード・プロダクション／(株)バックステージプロジェクト／
(株)ハヤシインターナショナルプロモーションズ (HIP)／(株)ハンズオン・エンタテインメント／
(株)バンダイナムコミュージックライブ／(株)フジテレビジョン／(株)プロマックス／
(株)文化放送開発センター／(株)ホットスタッフ・プロモーション／(株)ポニーキャニオン／
(株)ミュージックリーグ／(株)モストプランニング／(株)ヤング・コミュニケーション／(株)ライブエグザム／
Live Nation Japan (同)／(株)LIVE FORWARD／ライブマスターズ(株)／(株)Lucky FM 茨城放送

北陸・甲信越

(有)エフ・オー・ビー企画／(株)キョードー北陸／(株)サウンド・ソニック／(株)スーパーキャスト

中部

(株)キョードー東海／(株)サンデーフォークプロモーション／(株)ジェイルハウス

関西

(株)梅田芸術劇場／(株)キョードー大阪／(株)グリーンズコーポレーション／
(株)サウンドクリエイター／(株)清水音泉／(株)ソーゴ大阪／
(株)ナウ ウェスト ワン／(株)阪神コンテンツリンク／(株)ページ・ワン

中国・四国

(株)キャンディープロモーション／(株)デューク／(株)ユニオン音楽事務所／(株)夢番地

九州・沖縄

(株)GAKUON ユニティ・フェイス／(株)キョードー西日本／
(株)ピーエムエージェンシー／(株)ビッグイヤーアンツ (BEA)

A.C.P.C. navi Vol.56 2025年7月発行

発行人：中西健夫／編集人：田山順一／編集：田村華奈子、鬼頭隆生／デザイン：嘉手川里恵／取材・構成：君塚太
発行所：一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-21-18 恵比寿南ビル
TEL.03-5768-1731 FAX.03-5768-1732